

# 平成 13 年度国立学校等技術専門職員研修報告

－物理・化学コース－

工学部技術部 中村昇二 前田浩二

## 1 はじめに

平成 13 年度国立学校等技術専門職員研修が 7 月 24 日から 27 日の 4 日間、名古屋大学と名古屋工業大学を会場にして開催された。参加者は東海・北陸地区の大学等から 33 名の参加者があり、本学からの参加者は工学部から 2 名である。以下、研修日毎に分けて研修内容及び所感を記す。

## 2 研修内容及び所感

### 2-1 研修第 1 日

初日は同研修の他コースである生物・生命コース、情報処理コース参加者を交えて、名古屋大学国際開発研究科多目的オーディトリウムにて総勢 100 名近い大人数での開催となった。主に専門分野の内容ではなく行政関係の講義が三つ開かれた。普段、技術職員として専門業務に携わっている関係から、公務員としての基本的なものを確認する事ができ興味を持って講義を受けさせて頂いた。その後、全体の懇親会が開かれ各大学毎の紹介もあり、和やかな雰囲気の中素晴らしいひと時を過ごす事ができた。

### 2-2 研修第 2 日

二日目からはコース毎に開催場所が変わり、物理・化学コースは名古屋工業大に移動しての研修となった。午前中は二つの講義で、午後から実習をおこなった。実習は物理、化学で分かれ、かつ 6 名前後の小グループで実習を受ける事になった。実習テーマは「シリコン基板上の薄膜ヤング率測定」であり、著者自身の業務に関係する事もあり大いに参考になる内容であった。

### 2-3 研修第 3 日

三日目は、前日に引き続きテーマを変えての実習がおこなわれた。テーマは「透過電顕による薄膜の断面観察」であり、今テーマも著者自身の技術業務に共通するものであり改めて電子顕微鏡に関して勉強させて頂き理解を深めさせて頂いた。午後からは、場所を東海市の新日鐵資源サイクルセンターに移動しての工場見学をおこなった。

### 2-4 研修第 4 日

最終日は柳田学長の講義を中心に 2 つ開かれ、午後は専門職員研修から取り入れられている「先輩講和」と、おそらく初めての企画であると思われる「討論会」が行われた。討論会では、事前に参加者へのアンケートを行い話題は絶える事は無かった。懇親会の交流と違い、多くの情報が正確に得られた事は今後の研修のあり方を考えた場合参考になると思われた。

## 3 おわりに

四日間という長丁場の研修であったが、振り返ってみてモチベーションを常に維持しつつ各講義を受ける事が出来たように思う。これは、講義のバランスを考慮した研修企画力による事が大いに影響していると痛感した。また、実習のあり方においても細やかな指導が可能な少人数グループでの実習が効を奏していると思う。今後、本学で行う研修企画に大いに参考にさせて頂くつもりである。最後に本研修を企画された名古屋大学・名古屋工業大学の関係者の方々に深く感謝申し上げて本報告を終わる。